

# 『繋がる手』 寸評

- ・クラリネットらしい非常にたおやかでなめらかなメロディの展開がみごと
- ・動機模倣と各パートへの割り振りも所を得ている
- ・m.13-15 Cl.3に現れる主題が印象に残る
- ・各所に出てくる2度のぶつかりが、比較的狭い音域での声部進行をスムーズにしている
- ・m.5-8 各パートを音階上行形がつなぐ 全体のどこにも休符がないことも合わせ古楽のムードを感じさせる

## 完成度をさらに上げるために

- ・スラーとアーティキュレーションはついているのでダイナミックもつけよう
- ・テンポは ♩=120 でいいのかな これも指示してあげよう
- ・豊かな楽想を伝える発想記号もあるとよい ex. *molto espressivo*

## 異なったスタイルへの挑戦として

- ・全てのパートが同一音域を担当できるので、Cl.3だけを低音担当にせずともよい
- ・小品ではあるが吹奏楽器なので各パートにどこかしら休みを取らせることも意識
- ・リズム上で耳にひっかかる工夫として休符も積極的に利用
- ・トリオでも伴奏なしでソロになるところ、ここぞというみせばをアンサンブルに終始せず提供してみる
- ・逆に前奏も兼ねたリズムミックな伴奏だけで始めてみる

m.=measure 小節番号のことです。

たいへんよくできました。

持摩 勉